



第20回NM-GCOEセミナー

星野 英人 先生

(産業技術総合研究所セルエンジニアリング研究部門・研究員)

2010.1.15
医学部5号館
201号室



～蛍光タンパク質の生物発光的利用法 自己励起蛍光タンパク質・BAF～

非常に分かりやすく BAF についての説明、実演があり、興味深い講演でした。蛍光と発光の相違点、光と化学反応、エネルギーの相互関係などの基礎的な知識から、人工励起蛍光タンパク質・BAF のメカニズムまで理解することができました。

細胞内での様々な現象を画像化できるようになるので、さらなる応用が期待できると思います。現在の技術では解析できない分子メカニズムは多いと考えられています。



太田一成

(生物化学分野・大学院生)

転写因子を研究しているので、タンパク質の動向を高精度にリアルタイムに観察できることは重要なツールとして活用できます。BAF を用いることで研究を進めることができるようになることを切望しています。

また、先生のこれまでの研究の過程などをお聞きすることができたことも大きな収穫でした。開発や研究の奥深さに改めて感銘を受けました。



講師：星野先生



実演中・・・天然の蛍の光色などを見せていただきました



会場は、椅子を補充する程の大盛況ぶり

大学院生の感想

→ わかりやすく実演してくれて、役立つ話を聞かせてもらえました。応用性のある技術で、自分の実験にも取り入れられるのでは、と考え入ってしまいました。

→ 技術はすごく面白いと感じました。もう少し BAF が小さいと使いやすいと感じました。これからの開発に期待します。

→ 実演を通し、「蛍光」と「発光」の違いを直観的に理解できました。いろいろな応用可能な技術だと思うので、更なる改良を重ね、実用的なものにしてほしいです。

→ 実演があつてイメージがつかみやすかったです。

イメージングの像がともきれいで、これからの可能性を感じました。

大変わかりやすく、興味深い内容でした。「目に見えないようなものに導かれたような経験」、「転んでもただでは起きない研究者魂」など、ご自身の研究生生活を振り返るお話も織り込まれ、学生さん達には大変有意義なひと時だったのでないでしょうか。(支援室)

